

ートを読むと、「命は〇〇だと思う。」という観念的な記述。「〇〇な体験をして、命は〇〇だと感じた。」と経験を語る記述。「…」まだ何とも言えませんという回答。子どもたちの命に対する価値観は様々であった。そこで、第1回目の授業では、私が資料「ポトマック川の英雄」を子どもたちに用意し、命に対する様々な価値観について交流し合うことをねらいとした。子どもたちは、登場人物「スカトニック」「口髭の男」「助けられた人々」の三者の視点から命について考えていった。自分の命よりも相手の命を優先したスカトニックや口髭の男の姿に畏敬の念に近い感情を抱く子ども。また、スカトニック自身の命は家族の命でもあったと考えた子ども。助けられた人々は、犠牲になった人の命まで自分の命を大切にしていかなければならないと考えた子どもがいた。

(3) 「道徳の時間①」と「道徳の時間③」をつなぐ「道徳の時間②」の設定

第1回目の授業が終わった。次は、連続的な学びをつくり上げていくために設定した「道徳の時間①」と「道徳の時間③」をつなぐ「道徳の時間②」の登場である。第1回目の授業(=①)をふまえ、次はどんな道徳の時間にしていきたいか(=③)を話し合うのが「道徳の時間②」の位置づけである。第1回目の授業後の子どもたちの感想を座席表に書き込み、道徳の時間②で子どもたちに配布した。そして、司会者を男子女子から一人ずつたて、「3-A」をふまえて次の道徳の時間で話し合いたいこと」をテーマに意見を述べ合った。夢や希望と命を関連させて、「1」の部屋で話し合いをしたい子ども。命で相手のことを考えられたので、「4」の部屋を通して、もっと広い集団の中で話し合いをしたい子ども。「3」の部屋でさらに命について話し合いをしたい子ども。中でも、「命にはもっといろんな考えがあるんじゃないか。みんなで資料をもちよって考えたい。」と発言した子どものこだわりにより共感し、道徳の時間③は、子ども一人一人が「命についての自分の考えを語ろう」ということに決まったのである。

(4) 「資料からテーマを決めて語り合おう」という授業づくり

道徳の時間をつなぐ道徳の時間を設定して5ヶ月。「3-A」から始まった授業は、「命」をベースに置きながら、「家族」「絆」「戦争」という新たな視点を加えながら話し合いを続けてきた。子ども一人一人がそのテーマについての考えを伝えられることは、それを追究していく過程で自分自身の問題解決に役立っていった。しかし、一方でテーマは共通しているが子どもたちが持ち寄る資料が多すぎて、価値に対する思考が拡散してしまうという状況も現れてきた。(この状況を子どもは、「みんなそれぞれの資料や立場から発言するから、何を中心に言っているのかわからなくなってきた(困)」と言う…)それは、暗に一つの資料からテーマについて話し合っていきたいという転換を求める声でもあった。これをきっかけに始めたのが資料からテーマを決めて語り合う授業づくりである。無論、道徳の時間②を前提にすることで、そこに学びの連続性のポイントを置いている。この時子どもたちから「相手」「人」というキーワードが道徳の時間②で出されていた。そこで、名作「泣いた赤おに」を用いて、そのキーワードに迫っていこうと考えた。1時間目は絵本の読み聞かせを行った。そして、子どもたちの感想(特に、問いをもった感想や話し合いたいテーマをもった感想)をもとにして発問を構成し、ねらいと重ねていく授業を展開していった。

【問いや話し合いたいテーマをもった子どもの感想】

- C1: 赤おには青おにを犠牲にしてまで人間と友達になったけれど、果たしてそれは良いことなのかなと思いました。赤おには青おにという友達をなくしてしまったから、友達について考えたい。
- C2: 本当に犠牲は必要なのか？
- C3: ぼくは友達をテーマに考えていきたいです。なぜかという、赤おには青おにと人間のどちらを大切にしたい方がいいのか考えたいからです。
- C4: 赤おにが青おにをやっつけている時の赤おにの心情は？
- C5: どうして最後に赤おには人間の友達がたくさんいるのに泣いたのか？
- C6: 青おには赤おにに対してどう思っているか考えたいです。
- C7: 青おには自分の体をはってまで赤おにと村のひとが仲良くなれるようにつくしたからすごいと思った。だから、「一番大切なモノ」について考えたい。



発問を構成する。

【授業の中であらかじめ教師が意識して用意する発問】

- C1・C2・C3の疑問を生かして「赤おには青おにを失ってまで人間と友達になったが、果たしてそれは良かったのだろうか」というテーマ発問を設定する。
- 上記のテーマ発問に迫るための補助的発問としてC3・C4の疑問を心情を問う場面発問として活用する。
- C3・C4の場面発問の中で、C5の疑問を生かし、赤おにの気持ちだけでなく、青おにの気持ちにも触れていく。
- C1・C2の友達というテーマについて考える上で、C7の「一番大切なモノ」というのを関連付けて、子どもが日常生活を振り返る場面で活用する。

2時間目の授業では、テーマ発問を切り出し、子どもの意見の対立から資料に入っていった。特に、「良くなかった」と答える子どもの多くは、「青おには、他にもっと良い方法があったのではないか」という疑問をもっていた。しかし、「他の方法があったとしても、どうしてあえて殴られる方法を選んだのだろうか。その時の、赤おにと青おにの気持ちを考えてみよう」というC4を活かした場面発問をその子どもたちに切り返すことで方法論に向かうことなく、青おにの赤おにに対する深い思いに子どもの思考を近づけていくことができた。その途中、子どもから「青おには、犠牲になったと言うけれど、本当に青おには自分を犠牲にしていると思っていたのだろうか？」という問いが出てきた。C1やC2だけでなく他の多くの子どもたちは、「青おには犠牲になっている」という前提で疑問や意見をもっていたが、この子どもはそこにダウトをかけたわけである。問いが問いを生んだ形となり、「青おに犠牲説」の話合いは3時間目にもちこしとなった。

(5) 子どもの問いから問いをつくる道徳授業作り

「青おには、犠牲になったと言うけど、本当に青おには自分を犠牲にしていると思っていたのだろうか？」これを3時間目の導入に活用し、本時の展開を構成しなおすことにした。

【 3 時 間 目 の 展 開 】

① 新たな問い「青おには自分の心の中に犠牲という気持ちはあったのだろうか」

→ 子どもから出てきた新たな問いの解決により青おにの心情に迫る。それによって、第②発問の赤おにの心情に青おにの心情が重なり、深化されていくと考えた。

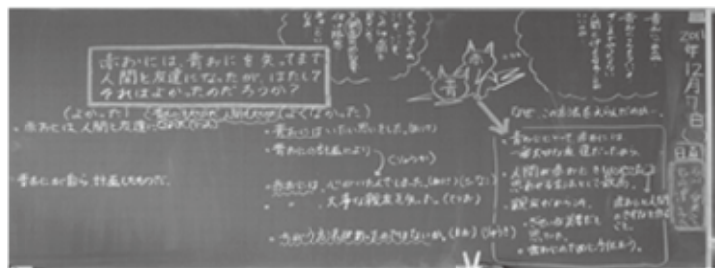
② C5の問い「どうして最後に赤おには人間の友達がたくさんいるのに泣いたのか?」

→ 本時の中心発問にあたる。①の問いとC6の問い「青おにの気持ちを考えたい」を生かし、赤おにの気持ちだけでなく、青おにの気持ちにも触れていく。

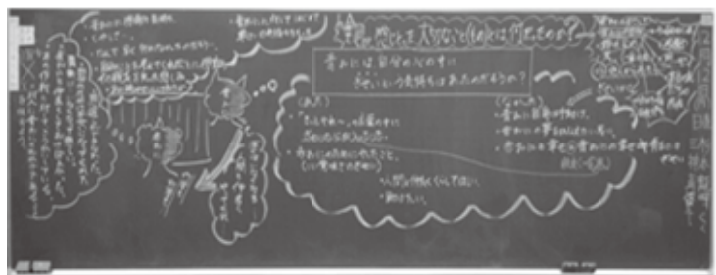
③ C7の問い「一番大切なモノとはなんだろう?」

→ 資料を通して、価値について考える。しかし、子どもが価値を自覚したり、日常に目を向けたりする場面が③までにあれば切り返しの発問を行っていきたい。

この授業を終えて、子どもの学びの姿を振り返ると授業の流れの中で子どもから新たな問いが生まれた時、それを追究していくことにより、子どもの学びの意欲や主体性がより高まると感じた。また、価値の追究を深めていく上で、複数時間にわたった指導計画は有効的だと考えた。一方で、子どもが価値を自覚化したり、日常に目を向けたりするという点では、子どもが資料から離れることができず課題も残った。このことを踏まえ、次時の授業では、子どもが道徳的価値を自覚するところ、自己を振り返るところをどこに設定するのかを教師側が吟味し、展開を構成していこうと考えた。



1時間目板書記録



2時間目板書記録

3. 子どもの歩みをふまえた次時のポイント

(1) 子どもの学びの向かう先を考える

子どもから出てきた「相手」「人」というキーワードから「人とのかかわり」に視点を当て、道徳の授業を進めてきた。資料「泣いた赤おに」では、犠牲の心を話し合いの中心に置きながら友情について考えた。それと共に、子どもから「道徳価値マップ」の分類の仕方に「このような分類の仕方はおかしい」「それぞれの部屋をひとくくりにできるのか」という疑問の声が出てきた。そこで、本時は「泣いた赤おに」同様、友情をテーマとする資料「ロレンゾの友達」から、その価値を多面的に見ていく授業を考えることにした。

(2) 子どもの問いが生きる発問づくり I

～価値や概念に迫る問い・資料のテーマに迫る問い・資料の心情に迫る問い～

子どもは資料を読んで、様々な捉え方をする。まずは、子どもが「考えたい」「話し合いたい」と思う問いを尊重することで、主体的な学びを大切にしてきた。そして、それを教師側のねらいといかに重ねていくかがポイントとなる。

前述の「泣いた赤おに」から出てきた子どもの問いを整理すると

☆「友達について考えたい」「友情について考えたい」「一番大切なモノとは何なのか」

→**①価値や概念に迫る問い**とよぶ。

☆「赤おには青おにを犠牲にしてまで人間と友達になったけれど、果たしてそれは良いことなのか」「赤おには青おにと人間のどちらを大切にしたいのか」

→**②資料のテーマに迫る問い**とよぶ。

☆「赤おにが青おにをやっつけているときの赤おにの心情は」「どうして最後に赤おには人間の友達がたくさんいるのに泣いたのか」

→**③資料の心情に迫る問い**とよぶ。

におおよそ分類することができた。子どもたちがこの分類を「ロレンゾの友達」を一読する前に振り返ることで、問いのたて方や話し合いたいことについての方向性を意識できると考えた。以下が「ロレンゾの友達」を読んだ後の子どもたちの問いである。

①価値や概念に迫る問い

Y・T: 本当の友達ってというのはどんなものなんだろう？友達について話し合いたい。

O・N: 次は友達を(テーマに)やりたい。

H・N: 仲間、友達について考えたい。

Y・S: 本当の友達なら何が一番良いことなのか考えたい。

M・M: 一番大切なモノをみんなで考えたいです。

②資料のテーマに迫る問い

T・T: みんなはどんな風(それぞれの立場をどんな風)に思っているかが知りたいです。

K・K: みんなだったら、3人のうち誰の意見か？

T・T: もし、本当に罪を犯していたら、3人の友達はどついていたのだろうか。

M・C: もし警察署に行って、本当にロレンゾが罪を犯していたとして、3人が呼び出されたとしたら、アンドレ・サバイユ・ニコライはどうしたか考えていきたい。

H・M: もし本当に罪を犯していたら、ロレンゾに対してどういうことを考えるのか？

③資料の心情に迫る問い

T・H: かの木の下に集まった時の3人の心情について考えてみたい。

S・H: ロレンゾが来なかった時の3人の気持ちは？

M・C: 「友達をかばって逃がしてやるのも友達かも知れない。でも、そのことでびくびくしながら逃げ続けたとしたら、かえって友達を苦しませることになる、と僕は思う。」とニコライが言った時、アンドレ・サバイユはどう思ったか？

K・H: ロレンゾが3人の立場の話の内容を知ったらどう思うか知りたい。

T・H: 酒場でなんで木の下で話したことを話さなかったのか？

T・R: 私は、あのかの木の下で話し合ったことを3人も口にできなかった理由はなんなのかなと思いました。ロレンゾの友達はみんなロレンゾに木の下での話をしなくて良かったのかなと思いました。

(3) 子どもの問いが生きる発問づくりⅡ

○価値の自覚化、自己を振り返る場をどう設定するか ～自分の立場を意識した問い～

子どもたちの中には、この資料を読みながら、「もし自分だったら」という自分の立場から問いをつくる子どももいる。

→**④自分の立場を意識した問い**とよぶ。

④自分の立場を意識した問い

I・I: もし自分がロレンゾの友達だったらどうするかについて話したい。

S・S: 最後の問いに関しては、私は通報したいと思うけど、勇気がないのでその時の自分によると思います。そして、このことについて皆の意見を聞いてみたいです。

T・I: ロレンゾが本当に罪を犯して帰ってきたら自分が友人だったとしたらどうすべきだったのかなあと考えた。

道徳座席表指導案② (3 / 3時間目)

<p>T・H ②それはニコライと同じ対応を絶対にする。なぜなら、それは罪を犯しているのが決定しているから悪いことは悪いから。</p>	<p>T・T ②サバイユの言葉にアンドレとニコライは「君の気持ちも分かるけど…」と言っていたから、警察に行くと思う。それかみんな犯人じゃないと言うなら警察へ行って一緒に嘘でもいいから無罪をとると思います。</p>	<p>※1 「自首させる」では同じ立場の2人ではあるが、その根拠は違う。同じ立場でもその根拠性が異なることから、友情への迫り方を考えさせたい。</p>	<p>T・A ②木の下で話していたようにすると思う。ロレンゾにそれぞれの意見を伝え、ロレンゾに決めてもらう。</p>	<p>K・K ②非難を難し「聞いて、というのはこの本に書いていないからだ。みんなすぐ考えただろう。口では何でも言えるけれど実際に行動に移すととなると大変だ。これは絶対にわかんない、考えれば考えるほどわからなくなる。たぶんアンドレは逃がしてやった。サバイユはすぐ逃げて逃がしてあげた。ニコライはすぐこぼれたが自首させた。(すべて理由あり)</p>	<p>※1 自分の身を守ることを考えながらも、気持ちの左右にふれるU・A。「自分の身を守ること」と何が天秤にかけられているのだろうか、友情について考えるきっかけにしたい。</p>	<p>K・T ②ぼくは自首をすすめる。罪が軽いうちに消しておきたいから。</p>	<p>H・M ②欠席</p>
<p>I・I ①もし自分がロレンゾの友達だったらどうするかについて話したい。自分がロレンゾの友達だったら本当に犯人なら自首させるし、無罪なら無罪ということを通じて自分が犯人じゃないと証明させる。それが本当の友達だと思うから。 ②たぶん自首させると思う。わざわざ罪のせいで逃げ回り時間を無駄にするよりは更正したほうがいい。</p>	<p>T・M ②かしの木の下で話し合っていたようにすると思う。やっぱり悪いことには変わりはないと思う。</p>	<p>※2 Y・T、H・Rは今回のテーマ「本当の友達とは？」についてとても悩んでいる。「自分だったら」という視点で具体的に考えさせたい。</p>	<p>M・M ②アンドレ・ロレンゾにどうしたいの聞いてみる方法を考えると思う。 ③サバイユが逃がした罪が重いのと思う。 ④ニコライが自首をすすめると思う。でも、納得したのだから逃がしたと思う。</p>	<p>U・A ①僕は自首させます。自分も共犯になってしまふからです。 ②たぶん共犯にならないためにも自首させる。</p>	<p>※1 勇気がでない根拠を引き出して友情について深く考えていきたい。</p>	<p>W・N ②4人で集合して詳しく話をします。そして自首をすすめる。納得できなければ3人のいづれかの家に泊まらせてよく考える。</p>	<p>H・N ②小さい頃からの友達だし、逃がすことは良いことではないと思っているから全員で自首させると思う。アンドレ・サバイユの意見が変わると思う。(本当の友達なら)</p>
<p>K・Y ①ポイントは、自分で判断して自首させると言えるけれど、行動では無理だと思ふから。 ②やっぱり自首させると思う。逃げる方がよくなるよりつらいから。</p>	<p>S・S ①の罪が軽い内に自首させる。</p>	<p>K・M ②私はニコライは逃がっている様子はないので、自首をすすめると思います。</p>	<p>M・Y ②ニコライと同じでもし罪を犯したら、注意して自首させて懲役何年でも心の中では友達。</p>	<p>T・Y ②すぐ3人は仲間がどうして間違ったことをしんたんだらうと悔やむと思います。</p>	<p>※2 勇気がでない根拠を引き出して友情について深く考えていきたい。</p>	<p>A・T ②ぼくだったらロレンゾに聞いてふり切って逃げられたらそのまま逃がすけれどなるべく自首をすすめてうまく納得したいです。</p>	<p>S・R ②ぼくだったら自首をすすめます。なぜかというと本当の友達(前からずっと)なのだから何が何でも自首をすすめると思いました。</p>
<p>T・T ②まず、ロレンゾに本当のことを話してほしい。なぜ、罪を犯す前に3人に相談しなかったのか。その答えによってまだ親友と認めるかたまたまの友達になるかを決定する。3人はこのまま意見はかわらなくて、本当のことを聞いてからこれからのことを考えて実行する。</p>	<p>S・H ②警察に連れて行く。逃がしたから、ロレンゾの友達とはいえない。友達として正しい方向へ連れて行く。</p>	<p>O・M ②アンドレ、サバイユ、ニコライはあせっていると思う。まずは、自首するか逃げるか考える。</p>	<p>T・Y ②すぐ3人は仲間がどうして間違ったことをしんたんだらうと悔やむと思います。</p>	<p>I・S ②自分でやっぱり自首をすすめるかと思ふ。でも、これはかしの木の下で話し合ったようにお金をもって逃がすと。でも、自首をすすめるかもしれない。 サバイユは自首をすすめて納得したから逃がすと。ニコライは自首をすすめて納得したから警察に言うと思う。</p>	<p>※2 勇気がでない根拠を引き出して友情について深く考えていきたい。</p>	<p>S・S ①最後の問いに関しては、私は通観したいと思ふけど、勇気がないでその決断の自分によると思ふます。そして、このことを後の選択を逃がさないでほしい。手のかきまも前通で、文責をそんまも多くなると。みんなに現る。仲間が強い)のすぐかたまたま。②ロレンゾが自首すると言ったらそれに従うが罪は解決したと思ふけど、自首したくないと言ったら、通観できないんじゃないかなあ。全然わかりません。</p>	<p>S・S ①最後の問いに関しては、私は通観したいと思ふけど、勇気がないでその決断の自分によると思ふます。そして、このことを後の選択を逃がさないでほしい。手のかきまも前通で、文責をそんまも多くなると。みんなに現る。仲間が強い)のすぐかたまたま。②ロレンゾが自首すると言ったらそれに従うが罪は解決したと思ふけど、自首したくないと言ったら、通観できないんじゃないかなあ。全然わかりません。</p>
<p>H・R ①最後の所でこのことを考えても永遠と答えが出ないと考えます。そしてそのことは考えるものでなく、得て、感じるものだと思います。ロレンゾのことへの信用や分ち合える関係について考えた方がいい。 ②あやふやが大切でそのあやふやをまず考えないといけないから意見は変わらない。</p>	<p>Y・T ②分からない!</p>	<p>M・C ②3人で話し合せて答えを出して警察に通報したと思ふます。友達だからこそ、この罪を伴って生きてはくはないから、自分の罪をつててほしいと3人は思っていると思う。</p>	<p>M・T ②いくら大事な友達でも罪は罪だから「ドキドキしながら逃げているより自首した方がいいよ」と言う。理由は、長くなれば長くなるほど罪が重くなってかわいそうだから。</p>	<p>M・R ②3人でもめると思ふます。「逃がしてやらたらかえって友達を苦しめることになる」と言う所はその通りだと私は思ふます。</p>	<p>K・H ②ニコライの自首の気持ち。納得。ゆい、優先させるの。アンドレのお金の気持ち。お金をそのままさせて、それを優先させるの。ぼくはニコライが中心に...</p>	<p>T・K ②自首をすすめると思う。このままロレンゾが逃がしたらもつとつらくなると思うから。</p>	<p>N・R ②本当に罪を犯したと思ふなくていつも通りにしてしまふ。</p>
<p>M・C ②3人で話し合せて答えを出して警察に通報したと思ふます。友達だからこそ、この罪を伴って生きてはくはないから、自分の罪をつててほしいと3人は思っていると思う。</p>	<p>M・T ②いくら大事な友達でも罪は罪だから「ドキドキしながら逃げているより自首した方がいいよ」と言う。理由は、長くなれば長くなるほど罪が重くなってかわいそうだから。</p>	<p>S・K ②自首をすすめていたと思う。</p>	<p>M・R ②3人でもめると思ふます。「逃がしてやらたらかえって友達を苦しめることになる」と言う所はその通りだと私は思ふます。</p>	<p>Y・S ①ロレンゾは友達に勧誘されていなかそうだった。「彼中になんか来たらどうしよう」と言った時、アンドレの言った「お金を持たせて逃げよう」というのは友達だからというのがあるかもしれないけれど、間違っていると思う。でも、実際友達を犯したと見られたらロレンゾだったら、自分では自首をすすめる勇気はない。</p>	<p>H・T ②欠席</p>	<p>Y・S ①ロレンゾは友達に勧誘されていなかそうだった。「彼中になんか来たらどうしよう」と言った時、アンドレの言った「お金を持たせて逃げよう」というのは友達だからというのがあるかもしれないけれど、間違っていると思う。でも、実際友達を犯したと見られたらロレンゾだったら、自分では自首をすすめる勇気はない。</p>	<p>H・T ②欠席</p>

(3 / 3時間目の授業設計)

- 子どもが前時にアンドレ・サバイユ・ニコライについて思ったことを振り返る。
- 資料のテーマに迫る問い (T・T、M・C、H・M)
 - 「もし、ロレンゾが本当に罪を犯して帰って来ていたら、アンドレ・ニコライ・サバイユはどうしていただろう？」
 - ・「自首させる」「警察に連れて行く」という考えが多い。しかし、簡単にそう考えられるのであろうか。3人の心の葛藤に目を向けていけるよう、補助発問を用意する。「なんで木の下で話し合ったことを酒場で話さなかったのか？」→資料の心情に迫る問い (T・H、T・R)
- さらに、○で開った、M・M、K・K、M・Y、N・Rは3人の葛藤に目を向けているので、意図的に指名したい。
- 自分の立場を意識した問い (S・S、T・A)
 - 「ロレンゾが本当に罪を犯して帰って来たとしたら、自分が友人だったらどうするだろうか？」
 - ・価値の自覚化、自己の振り返りへとつなげていきたい。Y・S、S・S、K・Yの「(勇気もなくて)自首をすすめられない…」という気持ちの根拠を引き出すことで友情について深く考えていきたい。また、U・Aの気持ちの左右を考えることで友情の価値に迫っていききたい。…※1
- 「友達について考えてきましたが、自分はどうなことを考えたり思ったりしましたか？」
 - ・「泣いた赤おに」から「ロレンゾの友達」まで、「友達」をキーワードに考えてきた。学びの連続性も意識させて、自由に感想を書かせたい。…※2

ねらい：前時の「本当の友達観」に自己の振り返りを重ねながら、自分自身の友情観を深めていくことができる。

※1 O・Nは、前時の「注意し合える仲間」「かまぼう仲間」の考えから変化が見られる。この根拠に触れていきたい。

●●…共感的
 ←→…批判的
 →…問い
 ※○…意図的アプローチ
 ①…前時、②…本時

5. 授業の様子 (3/3時間)

- T・R: もしロレンゾが本当に罪を犯して帰って来たとしたら、アンドレとサバイユとニコライはどう思ったか考えていきましょう。
- T: 昨日の振り返りなんだけど、それぞれの立場で考えたよね。アンドレについては、ロレンゾのこと信じている。これはサバイユも同じだと。ニコライも同じ。さらに、信じているから助けたい。
- O・N: ん?
- T: O・Nが「ん？」って言ったようにこういうことも出ていたよね。「もやもや」と付け足す。) いいですか?
- O・N: ていうかさ…。

O・Nにとっては、この4人の関係が「本当の友達」なのか?という問いが前から続いていた。その反応だったのではないだろうか。

- T: 特にアンドレとしては、ロレンゾのことを犯人と思っていないから、ロレンゾから見たら「裏切れない友達」なんだと。同様にサバイユもそうだと。一方ニコライ。ニコライは「もし罪を犯していたら、ロレンゾがかわいそう」だから、友達に注意できることは大切だよなって話がありました。今日はここがテーマとも重なってくると思うのだけれど、もしロレンゾが本当に罪を犯して帰って来ていたとしたらこの3人はどうしていただろうか?—資料のテーマに迫る問い
- H・T: 真の友達というのは、注意し合うものだと思うから、サバイユは違うと思う。
- T: じゃあ、この3人はどうしたと思う。
- H・T: 自首を勧めて、納得しなければ警察に連れて行くと思う。
- T: 他にも自首を勧めると思う人?
- M・C: 私も同じで友達だからこそ犯した罪の傷を背負って生きていって欲しくないから連れて行くと思う。
- T・H: みんなと違うけど、自首はさせると思うけど、ニコライ以外はかくまうんじゃないかな。本当の友達で見たときに、自分だったら言えないと思うし。なんというか、そこまで警察に通報できないかなと。たぶん。
- W・N: もし私なら自首を勧めるし、納得しなければ泊めてあげて、自分から自首するように納得させる。ロレンゾにとってもいいと思う。
- A・T: かくまうと自首の間なんですけど、最初は自首を勧めるけど、振り切って逃げたら友達として何か理由があると思うし。
- K・K: 3人はまずロレンゾのことを友達と思っているじゃないですか。だから、ショックを受けます。それで、3日ぐらい考え込んで、それから答えを出すと思う。アンドレは、逃がしてやると思う。なぜかという、櫛の木の時から逃がしてやると思っていて、その意思が強いから。サバイユはある意味、両方意見をもっていて、だからどっちにするか迷うと思う。でも迷った結果逃がしてやると思う。なぜなら、友達に自首させるのはつらいことだから。ニコライは、自首させると思う。かしの木の時から、自分は罪を償ってもらおうという心構えだと思うし、ニコライは本当の友達というのは注意してあげられるのが本当の友達と思っているからだと思います。

T・HやW・Nはすでに「自分だったらどうするか」という立場を表出させている。また、3人の立場から共通する気持ちと異なる気持ちについて触れるK・Kの姿があった。

- O・N: わからないけど、まず信じていたら警察の方が間違っていると思う。ぼくだったら、その時点で間違っていると思う。最初にショックを受けると思う。「やっていないでほしい」と思う。次にアンドレは「助けたい」という思いがあるけど、全員「助けたい」と思っていて。でも、アンドレとニコライは対立していて、サバイユは中立的でアンドレとニコライの間に立っていて。サバイユが相当迷うと思う。なんでかという、もし帰って来たとして、罪をやったという事実が届けば、自首を勧められないと思うから。お金を持たせて逃がすか、かくまうかだと思う。
- T: 今、アンドレとニコライは対立があると言ったけど、そういう意見をもった人いる?なんで?

前時の授業の道徳ノートにアンドレとニコライの対立に触れる記述があった。そこで、O・Nの発言を活かしてつなげていこうと考えた。

- K・M: まずアンドレとニコライは意見は違ふし、助けたいけど考えが違ふし、揺れると思うけど、ロレンゾがどう思っているかというところを気にすると思う。やった本人がどうかというところだと思う。
- U・A: たぶんアンドレ、ニコライ、サバイユ、ロレンゾには「友達のリング」があって、だと言っても共犯者にもなりたくないし、自首もさせたくないし、何もしないう。通報もしない。見なかったことにする。

アンドレとニコライの対立に触れるK・Mであるが、ロレンゾの立場を踏まえるという新しい視点が出てきた。さらに、U・Aからは「友達のリング」という表現。前時の座席表指導案の記述にはない表現である。

- T: 今の意見に対してどう?「友達にリング」だって。
- N・R: 何もしないうのはいけないと思うけど。どちらが正しいかではなく、自分の意見を言ってあげられるのが友達と思うから、見逃すというのはいけないと思う。
- T: 昨日さ、N・Rは道徳ノートにこう書いてあったよね。3人はもめると思う。特にアンドレとニコライ。もめてどうなると思う?
- N・R: アンドレとニコライがもめるというのは全く違う意見だから。ニコライがアンドレにロレンゾが警察から逃げた方がいいと言って、アンドレはそうかと思うかもしれない。
- T: 今N・Rも言ってくれたけど、この二人の思いついて強いんだね。でもね、M・Mはサバイユも変わるかもよって思っているんだよね。お金をもたせて逃がす?

意図的にM・Mを指名した。前時の記述から、サバイユの気持ちの行動の変化に触れていたからである。

- M・M: でも変わった。
- T: では、最初なんでこう思ったの?
- M・M: 物語に、(サバイユは) お金を持たせてだまって逃がしてやるとあって、でもその後も強く反対していたから。
- T: でも、それが変わったというのは?
- M・M: あくまで私の意見なんですけど、逃がしている間もつらいと思うし、自首した方がロレンゾにとっても罪が軽くなるからそう思ったんじゃないかな。
- H・R: まず、サバイユのことについては文章中からは読み取れないかなと思って。ただ、お金を持たせるということについて、アンドレが言って、サバイユはロレンゾ次第で決まると複雑であやふやで。でも、3人はけっこう会っているようで、ニコライとアンドレが対立というよりか親友ならそうではないと思う。というよりか、ロレンゾが納得しないことが3人のことを信頼し

ないということになるから。ロレンゾが3人に打ち明けるようなことを言うと思う。その後に信頼したものが生まれると思うから。

O・N: 僕も似ていて、もめると言うよりも、けんかではなく。アンドレは信じるというのが逃がすと言うことで。ニコライは注意。僕としてはロレンゾ次第で3人の意見は変わるわけで。ロレンゾが3人をどう思っているかということが大切なんじゃないかな。

T・T: え〜。

T : T・T、どうぞ。

T・T: ロレンゾがどう言おうとニコライの考えにいくと思う。ニコライが自首をすればと言うとロレンゾは首を引っ込むと思う。したら、アンドレが、逃げればといっても傷のケアにしかならなくて。やっぱりニコライの考えにいくんじゃないかな。

K・K: T・Tのことに分るんだけど、結局僕からすれば、2人が対立しているようで、終わりが無くなるから、H・RやO・Nのように、まずロレンゾがどう思っているかというのを聞くんじゃないかなと。

K・Kは、H・RやO・Nの意見から、最終的にはロレンゾの思いを聞くことが大切であると考えた。仲間との交流により考えが変容している。

T : じゃあ、もしロレンゾが罪を犯しました。そして、「ぼくは逃げたい」と言ったならば、この3人は逃がすと言うこと？

C : ええ〜。

T : ロレンゾによるんでしょ？そういうことじゃなくて？

H・R: だから、ロレンゾ自身の決め方が…。ロレンゾの言ってくれるのが本当の友達とするし、ニコライから見ても注意してあげられるのが友達だし…。そこで、アンドレの意見がでると心のケアになるだけと言うけど、でもそれはロレンゾにとってもややこしい関係になるからだからロレンゾの意見に左右されるのは3人の考えに比例されていくから。本当の友達という想像図がみんな違うから、それは成り立たないと思う。

T : 今、もめるとかややこしいって出てきたけど、これはいけなの？

H・R: いや…。

K・M: それだけ考えてるからいいんじゃないの（つぶやき）

O・N: てか、それは先生の解釈？

S・H: それほど3人はロレンゾのことを考えているということだと思し、逆にいい事とも言える。

O・N: 僕としては、まず、先生が言った「ロレンゾが逃げたい」と言った仮定が違うと思って、わざわざ電報を打っているということはそんなことはしない。もし僕がロレンゾだったら電報を打ったからには、自首しようか逃げようかの中間にいて相談しようと思っていたと思う。

S・S: ロレンゾはつらい時にあるわけだから、夜中に帰って来て、アンドレのところに来たら、お金を持たせて逃げたろうし、サバイユのところに行ったらそのまま自首するか逃げるかだし、ニコライだったら自首を勧め、だめだったら通報すると思う。

T : S・Sは、それぞれの立場で考えてくれたんだけど。難しい問いだね。もし自分だったらという問いを出してくれた友達がいるんだけど、どうだろう？→自分の立場を意識した問い

この発問から挙手するメンバーに変化が見られた。今まで、黙っていた子どもたちが意見を出し始めた。

K・Y: 僕はニコライと同じで自首させる。

T : なんて？

K・Y: 逃がしてしまったらロレンゾに本当に仲の良い友達が他にもいるとは限らないし、通報されるかも知れないし、僕がニコライだったら…まって、僕だったら自首させるかな。逃がしてしまったら精神的に疲れるから自首を勧める。

T : ちょっと返していい？みんな座席表手元にあるでしょ。K・Yはこう書いてあるよね。「ポイントは口では簡単に自首させると言うけれど、行動では無理だと思う」と。なんで？

ここでも前述のM・M同様意図的な切り返しを行った。特に、言葉と行動は裏腹などところがあるというグレーな部分を指摘していたK・Yの意見から心の葛藤へとつなげていこうと考えた。ちなみに、座席表指導案は、矢印等を抜いて、感想のみを書いたものを子どもにも配り、前時までの友達の学びがお互い分かるようにしている。

K・Y: 意見が変わった。

T : なんて？

K・Y: 意見を聞いていたら、ニコライの文章が大切にしていることが分かったから。親友だから。

I・S: 私だったら、座席表と矛盾しているだけ。最初はサバイユだったんだけど、つらくなってしまうから、ちゃんと注意できるニコライのようにすると思う。

S・R: 僕もニコライと同じで。自首させないとニコライも自分も犯人のような感じになるし。ロレンゾもずっと罪を背負っていかなければいけないし。

T : Y・Sはどう思う？

K・Y同様、言葉と行動は裏腹などところがあるというグレーな部分を指摘していたY・S。S・Sへも意図的な指名を行い、葛藤に拍車をかけていく。

Y・S: 最初は自首させたいとは思いますが。できないかもしれない。

T : どうして？

Y・S: 友達だからというのものもあるけど。本当にロレンゾにとって自首させることでも勇気が出ないかもしれない。

T : S・Sは、どう？

S・S: 私も似ていて、気持ちは自首させるんだけど、本当にそうになったらその光景を目の当たりにしてしまったら思っていたことと反対のことをしてしまうかもしれない。

T : みんなどう思う？君たちが信じる友達がいた時、どうするだろう？

T・H: ぼくだったら、ニコライかな。逃げさせるとロレンゾもつらいけど。それを見ている自分もつらいから。自分にとってもロレンゾにとってもいいのではないかなと思う。

K・H: サバイユです。自首と逃がすのと両立に立って、どっちの人間にもなりたい。

A・T: 今思ったんだけど、サバイユが一番友達思いなのかなと思って。何でかという、文章に電報がきて、すぐに自首させようとか、逃がそうとか思わず、まず話を聞くと思うから。

H・R: 文で見たんだけど、眠れないまま夜を明かしたとあって、みんなロレンゾのことを考えていて、ロレンゾはうれしいと思う。

でも、本当の友達というのが僕的にはわからない。これ自体を自分たちが決められないので、ロレンゾに「こう考えたんだけどどう思う？」と言って、最終的な判断はロレンゾが決めるべきだと思う。

K・M：私は友達なら悲しんだり後悔して欲しくないから、逃げたいと言ったら「もう一度考え直したら」と言うけど、私自身もそういうことがあったら私も逃げたいと思うから「自首してもう一度チャンスがあるんだから」と言ってあげる。

H・T：ぼくだったらニコライです。ロレンゾをかくまったり逃がしたりするのは犯罪だし、友達としても自首を勧めるべきだと思う。

K・K：僕だったら、それぞれの友達に会いたいし、不満を残したくないから話し合います。

S・S：私もニコライで、ロレンゾの気持ちをまず大切にあげたい。でも、「逃げたい」と言ったら「今自首した方が正直でいいこと」をちゃんと伝いたい。

O・N：この3人とは少しちがって、どちらかという サバイユ。まず、一番大切にしたいのはロレンゾの気持ちで、逃げたいと思えば逃がすし、償うと言ったら同行するし、迷ったら僕も一緒に悩むと思う。

法律の遵守という視点からも考えて、およそニコライ派の考えで友情について収束していったのは教師の思いとも重なった。さらに、ロレンゾの思いを尊重し、彼の意思で決めさせたいという新たな考えも出てきた。また、Y・S、S・Sのように、そうは言っても勇気をもって行動できるかどうか不安という葛藤も表れ、子どもたちと共に友情について深く考えることができた。

T：みんないろんなこと考えたと思うんだけど。最後に悩ませる難しい質問していい。前に、「泣いた赤おに」やったよね。君たちからの問いで「友達について考えたい」と言うのが出ていたんだけど、今回もそうだったよね。何か共通するものあった？

「学びの連続性」を意識してきたからこそ、子どもたちに問いたい「私からの問い」でもあった。「友達を考えたい」から大テーマとして友情という価値に迫ってきたが、友情の価値に牽引されるがごとく、この後「助け合い」という価値も発言から出てくる。

C：ある感じするけど… あった あった (つぶやき)

H・R：「泣いた赤おに」だったら赤おに、「ロレンゾの友達」ならロレンゾみたいに主人公の気持ちの悩む気持ちについて色々な読み取り方ができるということ。

K・Y：友達と「助け合う」ということ。ロレンゾが罪を犯したなら3人で助け合って考えて、「泣いた赤おに」だったら、青おにが赤おにと人間を仲良くさせるために助け合った。

A・T：一番大切な人とか物とかをめぐる悲しみとか迷いとか。赤おにも最初は青おにのことをありがたうと思うんだけど、次は悪かったと思うし。サバイユニコライアンドレも最初は罪を犯したんじゃないかと思うけどそうじゃなくてまあ良かったと思って、迷いから生まれたやっぱり「友達のリング」というか。

授業の冒頭でU・Yが発言した「友達のリング」をつかっけて、その中には迷い、不安があることを語るA・Tの姿があった。

K・K：僕は二つの共通点はA・Tと似ていて何をすることが友達にいいのか。そこを考えたこと。ロレンゾにとって何をすることが…うれしか…赤おにだったら、人間と友達になることなのか、青おにとずっと友達になることが大切なのか…というところ。

T：Y・Tは、昨日の道徳ノートに最後、「わかんない！」ってあったので。考えても分からない。今こうやって考えてきてどんなこと思った。

Y・T：やっぱり自首にいったんじゃないですかね。

T：なるほど。そう思ったんだね。

T・R：一人ひとり意見をもって言うことができていたのよかったです。

6. 考察

【本授業について】

○ねらいの明確化（ゴールの位置づけについて）・価値の自覚化について

本授業のねらいは2点。

- ① アンドレ・ニコライ・サバイユの立場や心情を通して、本当の友達とは何か考えることができる。
- ② 前時の「本当の友達観」に自己の振り返りを重ねながら、自分自身の友情観を深めていくことができる。

前時では、「本当の友達とは」を大きなテーマにすえて考えることができた。資料を通して、3人の立場からそれぞれがロレンゾのことを深く思っていることに気づくことができた。また、それぞれの友達観の良さにも目を向けることができた。「もし、自分だったら」という発問から資料の世界であっても子どもは自分のフィルターを通して友情のあるべき姿について考えることができたのではないだろうか。特に、本授業の後半、「言葉では言えるけど行動に表すのは難しい」というK・Yの意見をきっかけに、心の葛藤に迫りながら、よりよく生きる上で子ども自身の考える友情観を深めることができたと思う。

○日常に目を向けることについて

友情という価値を具体的に体験、経験から語ることは大切なことである。本授業では、この点については触れることができなかった。また、子どもの道徳ノートの振り返りを読んでみてもそれについて書かれている記述が少なかった。資料の内容と日常生活との距離感もかかわってくることであるため、一概に体験や経験を語らなければならないとは言えないものの、発問の内容の吟味を今後の課題としていく。

○子どもの学びの足跡を認識することについて

子どもの学びの足跡を表記した「座席表指導案」をいかに教師が活用できるかがポイントとなってくるだろう。特に子どもと子どもの思考を結びつけるために（指導案中の「→」）「教師の出」はどこなのか考えなくてはいけない。特に本授業では、足跡を意識するあまり、「教師の出」が強かったように感じる。子ども同士の意見交流の中からさらに考えを深めていくこともできたのではないだろうか。どこで教師は「待つ」のか、これも今後の大きな課題となった。

【テーマ「子どもの学びの連続性をつくる道徳授業の創造～子どもの問いから学びの連続性をつくる～」について】

○「型破りな演技は、型を知らなければならぬ。型を知らずに演技することは形無しという」を肝に銘じて

子どもが主体となり、自ら意欲的に考え、目を輝かせて取り組める道徳の授業とは何なのか。常にそれを意識しながら試行錯誤して実践を繰り返している。その中で、道徳授業の「型」と言われているものを、あえて帰納的に個々の子どもの思考や問いから創り上げていった時、その「型」の価値を改めて理解できると考える。また、時にその「型」では、目の前の子どもの心に響かないこともあるだろう。だからこそ、不易な「型」と子どもの実態を重ねながらよりよい道徳授業とは何なのかを子どもの学びの姿を通して考えていくことが最も大切なことではないだろうか。